

第4章 展 望

1. 市民討議会の展望

「南の風トーク～くにたち市民討議会～」は多くの方々のご協力のもと、開催することができた。

そこでまず準備期間、開催、報告書作成に至るまでのプロセスとして、有識者の知識や情報は欠かせないものと感じた。市民討議会に参加していただく方々への細かな配慮や実行委員会での注意点などは、経験者または有識者でなければ発信することのできない情報である。

「南の風トーク～くにたち市民討議会～」の開催にあたっては、国立市で初めての市民討議会にも関わらず多くの参加者が集い、最初のテーマから熱のある話し合いとなった。

テーマを重ねることで、地域の諸問題や課題に様々な観点から話し合いを進め、意見をまとめていった。また、バスツアーを盛り込むことで、現状の地域を体感していただき、より一層、地域の特色に沿った話し合いとなった。

市民討議会は、地域行政への取り組みに積極的に参加するまでには至らない多くの市民を、無作為抽出という手法によって、いわば意欲はあるが参加の機会やきっかけがなかった方々を「受け手」のままにせず、市民の豊かな知恵と経験を引き出し、まちづくりに反映させることが可能な手法であり、テーマ選定など多くの応用が利くと考えられる。

先に記載した有識者の必要性において、経験者や参加者の経験値は貴重である。有識者だけではかなりの負担が掛かってしまうことを考えると、経験者や参加者の経験値には有効性がある。そのためにも市民討議会を継続的に実施しノウハウの蓄積を行い、政策・計画などといった部分でどのように使うかの検討が必要である。

一方、参加市民の参加意識が高まったことで、その後のまちづくりへの参加機会を市民討議会に留まらず、どう創造するかが課題となる。

今後も国立市において市民討議会が多様な課題に対して有効的に実施されることを願い、市民や行政、諸団体が協働し「くにたちのまちづくり」に邁進することを期待したい。

